

あいおいニッセイ同和損保

スポーツ支援の取り組みで「オンリーワン」

制度創設しアスリート雇用を推進

あいおいニッセイ同和損保のスポーツ支援の取り組みは、独自にアスリート雇用を推進し、あらゆる活動を全国展開していることが大きな特徴だ。同社がスポーツ支援を開始した2014年当時、本格的にスポーツ振興、とりわけ障がい者スポーツに取り組み企業は少なく、以降同社は多くの企業に見られた支援スタイルとは異なる「オンリーワンの支援スタイル」を確立してきた。同社のスポーツ振興推進に長年取り組み、礎を築いてきた経営企画部担当次長の倉田秀道氏に、スポーツ支援の取り組みを通じて「人財育成・共生社会の理解」を呼び掛け、持続可能な社会維持に貢献する同社の取り組みについて話を聞いた。

——アスリート雇用制
度設立の背景と経緯につ
いて。
倉田 当社は14年4月
にオリパラプロジェクト
チームを組成し、初年度
は日本障がい者スポーツ
協会のスポンサー契約を
締結、まず、障がい者ス
ポーツの大会応援を実施
し、社員に「観てもらっ
・知ってもらっ」ことが
員に理解を取り、その足
りた。現在の雇用人数や
スポーツ種目の内訳など
について。

倉田 21年1月1日現
在、契約アスリート2
人、社員アスリート20
人(内、パラアスリート15
人、アスリート5人)の
計22人だ。競技種目別
には、水泳・競泳5、陸上
2、卓球2、車いすバス
ケ3、車いすダンス1、
視覚障害柔道1、デフサ
ッカー1(パラアスリ
ト)、陸上2、水泳・競
泳2、女子サッカー3
(アスリート)となっ
て



倉田氏

——アスリートへのパ
ックアップ体制は。
倉田 アスリートに必
要なものは、強くなるた
めの環境づくり、とりわ
け、練習時間の確保や合
宿・遠征費用が重要だと
考えている。例として強
化費(国内外遠征等合宿
費用、指導費用、ケア費
用、サプリメント、ジャ
ージ・レースウェア等)
の支給、連登登録料、試
合エントリー料、練習・
試合にかかる交通費の補
助を行っており、次年度
からは新たな奨励制度を
導入している。

——アスリートへのパ
ックアップ体制は。
倉田 アスリートに必
要なものは、強くなるた
めの環境づくり、とりわ
け、練習時間の確保や合
宿・遠征費用が重要だと
考えている。例として強
化費(国内外遠征等合宿
費用、指導費用、ケア費
用、サプリメント、ジャ
ージ・レースウェア等)
の支給、連登登録料、試
合エントリー料、練習・
試合にかかる交通費の補
助を行っており、次年度
からは新たな奨励制度を
導入している。

自治体と連携した地域貢献活動も

計画している。また、冒
頭でもお話ししたように、
全社を挙げた大会応援も
アスリートへのバックア
ップの一つと考えてい
る。

——自治体と連携した
地域貢献活動は。
倉田 アスリートによ
る社会活動(講演活動

等)は地域の人々や子ど
もたちに生の声を聴いて
欲しいというニーズが高
いと認識している。当社
はスポーツ振興という位
置づけだけでなく、「所
属アスリートの活躍の場
づくり」の一環としても
位置づけ、17年より取り
組みはじめた。取り組み
を開始して、自治体と連
携することで、地域貢献

がアスリートを盛り上げ
てくれている。障がい者
アスリートだから特別な
存在といった感情も減少
し、社員の障がいを持つ
社員に対する理解と、双
方向コミュニケーション
も進展している。知的障
がいアスリートには職場
でシスター社員が付いて
業務の洗い出し、仕事の
すすめ方をアドバイスす
るため達成感が増してい
る様子だ。また、聴覚障
がいアスリートは職場で
手話教室を開催するな
ど、結果として、広く障
がい者雇用につながる素
地が培われている。



所属する選手を起用した
ポスター(上)、マラソ
ンの川内選手、車いすバ
スケットの秋田選手(中
段)、川内選手と倉田氏
(下)

業としてアスリートを社
員として、人間として、
育成することである。
それは、目標設定や内容
理解に選手格差があるか
らでもある。

一方、会社側の課題も
ある。アスリートが所属
していること、スポーツ
支援していることの社会
的意義を社内よく考え
たい。定量的・定性的な
分析により、その価値を
示すことも求められる。

——今後の展開は。
倉田 コロナ禍で従来
の取り組みが継続できな
いこともあるが、できる
ことを粛々と実行する。
アスリート雇用は、スポ
ーツ支援の中核であるこ
と認識し、継続して雇用を
行う。採用に関する方針
は不変で、「デュアルキ
ャリア」「エリアサポー
ト」「キャリアプラン」
の三つの基本方針に基づ
いて行っていく。①デュ
アルキャリア(業務と競
技を両立)・業務を通じ
てコミュニケーションカ
や自己表現力など能力を
高め、競技者としての人
間力を高めることをその
狙いとす②エリアサポー
ト(地域で頑張る選手
を支える)・全国に営業
拠点があるため、真摯
(しんし)に努力してい
る選手を地域ごとに応援
する。そして、当該地域
の取引先にも声掛けして
支援の輪を広げ、地域で
支える枠組みを構築する
③キャリアプラン(競技
引退後も継続雇用)・競

技引退後も、それまでの
経験や能力を生かした働
き方の選択肢をつくり、
生涯にわたって働けるよ
う支えるの3点だ。
アスリートの活動を通
じて、当社のスポーツ支
援の社会的意義が認識さ
れ、スポーツ支援が当社
の特徴の一つになってき
た。アスリートの動きを
コアとして、さらに力タ
手となるよう育んでいき
たい。

【倉田秀道氏の略歴】
早稲田大学大学院スポ
ーツ科学研究科修了。あい
おいニッセイ同和損保経
営企画部次長。スポーツ
振興・障がい者スポーツ
支援の指揮を執るとも
に、所属するマラソン川
内優輝選手をはじめ五輪・
パラ選手の育成、マネジ
メントを担当。選手の指
導経験も豊富で、コーチ
ング、スポーツマネジメ
ント領域に明るい。20
03年に早稲田大学スキ
ー部監督に就任。フルタ
イム監督として同部を40
年ぶりの日本一、通算9
回の日本一に導くことも
にノルディック複合の渡
部暁斗選手(北野建設)
ら21名のオリンピック選
手を輩出。パラリンピッ
クの村岡桃佳選手(トヨ
タ自動車)も教え子。
(公財)日本オリンピック
委員会強化委員、(公
財)全日本スキー連盟ク
ロスカントリー強化委
員、早稲田大学客員教授
などを歴任。